

美術史研究でのIIIF活用に向けた期待

○鈴木親彦（[CODH](#)）
高岸輝（[東京大学](#)）

美術史が抱える課題の幾つか

- 作品へのアクセス
 - 「美術作品」へのアクセスは様々な制限がある
- 様式研究の減少
 - 直感的なものではあるが...
 - 他の歴史学との差異がなくなりつつある？
- 研究再現性・教育課程への展開の難しさ
 - 大家は数多くの名品を見て脳内データベースをもっており、その結果として論文を書いている。
 - これを初学者・入門者にどう伝えるか？
- 課題解決の一端がIIFによる高精細画像公開にある

期待 1

IIIFによる高精細画像の公開

- 美術史研究者の目で「**研究で使える＝見るに耐える**」デジタル画像が増加
 - 本物を見る完全な代替にはならないが、研究において活用可能である
- 作品への**アクセスが容易**に
 - 埋もれていたものの検索・発見が可能になる

期待 2

IIIF Curation Viewerによる様式研究

- 作品を詳細にみる様式研究の手法として
- 先人たちは「**ハサミ**」と「**ノリ**」と、「**脳内に蓄積された様式データベース**」を活用

例：相沢正彦「石山寺縁起絵巻詳解」『石山寺縁起絵巻集成 論考・資料編』中央公論美術出版（2016年）

挿図7 栗田口隆光作品の容貌の比較

栗田口隆光作品	「石山寺縁起絵巻」	栗田口隆光作品	「石山寺縁起絵巻」
			
譽田宗廟 上巻第一段	第二段	譽田宗廟 上巻第二段	第一段
			
譽田宗廟 上巻第二段	第一段	融通念仏 上巻第十段	第三段
			
譽田宗廟 上巻第一段	第三段	融通念仏 上巻第十段	第三段
			
譽田宗廟 上巻第四段	第一段	譽田宗廟 上巻第二段	第一段
			
譽田宗廟 上巻第二段	第一段	譽田宗廟 上巻第一段	第一段



挿図5 「融通念仏縁起絵巻」 清凉寺



挿図6 「譽田宗廟縁起絵巻」 誉田八幡宮



「石山寺縁起絵巻」



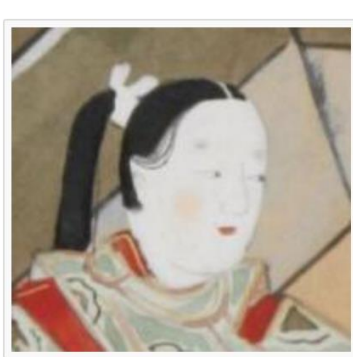
期待 2

IIIF Curation Viewerによる様式研究

- CODHが公開している **IIIF Curation Viewer** のキュレーション機能を活用
 - <http://codh.rois.ac.jp/software/iiif-curation-viewer/>
- 選択した **部分を切り抜いて** キュレーションリストに登録できる
- 日本古典籍データセットの中から、美術史的に興味深い「奈良絵本」をキュレーションしてみた
 - データセット：<http://codh.rois.ac.jp/pmjt/>
 - キュレーション：<http://codh.rois.ac.jp/pmjt/curation/3/>



1



2



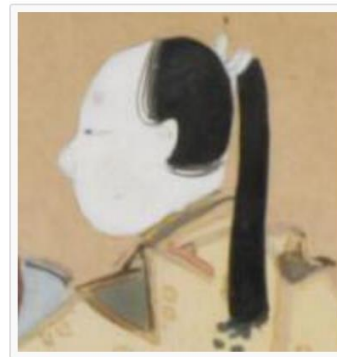
3



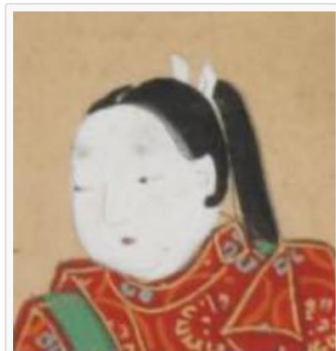
4



5



6



7



8



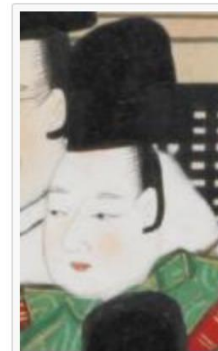
9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



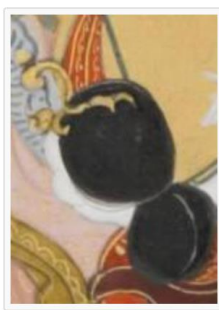
40



41



42



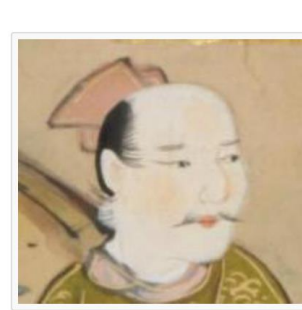
43



44



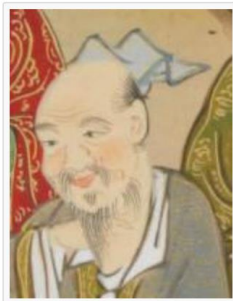
45



46



47



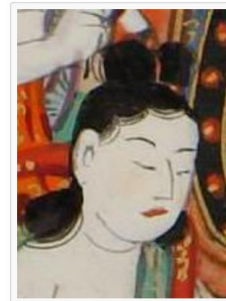
48



49



50



51



52



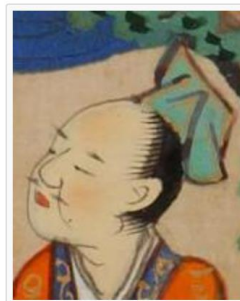
53



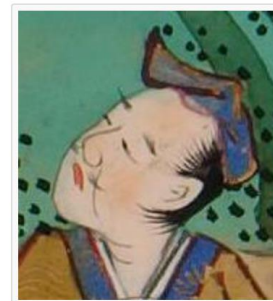
54



55



56

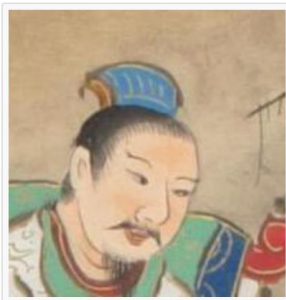


57



58





61



62



63



64



65



66

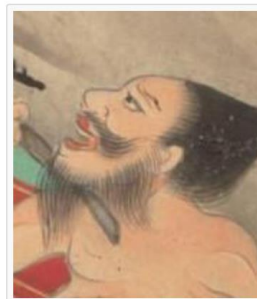


67

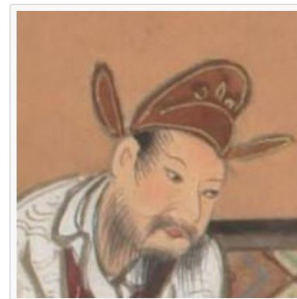


68

咸陽宮/30



69



70



71



72



73



74



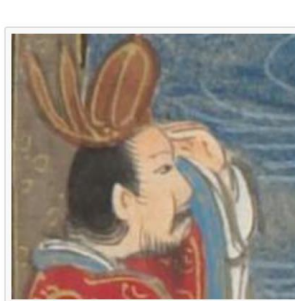
75



76



77



78



79



80

期待 2

IIIF Curation Viewerによる様式研究

- 描き方、モチーフそのものに容易に集中できる
 - 元の作品全体へも簡単に戻ることができる
 - ハサミとノリの手作業からの解放
 - 取捨選択から全部出しへ
-
- 様式に重点を置いた研究が、
過去よりも容易に、より高い水準で可能
になることを期待

期待 3

再現性・教育への展開

- 最終的に論文に掲載されるのは、特徴的な比較画像のみ
- そこに至るための「**研究データ**」としてのリストもデジタルで残せる
- 研究の再現性の向上
- 大家の論文で使われている特徴的な画像が、**どのように選択されたのか追体験**可能
- 初学者の**教育**、研究の底上げに最適

今後の期待

- 美術作品のIIIFでの**公開促進**
 - 特に「基準作」となる国宝、重文級の作品が増えれば美術史研究のあり方が変わる可能性は高い
- ローカルな作品の**公開促進**
 - 名品も重要だが、デジタルの利点として量の拡大も重要。「美術全集」には掲載されない作品が研究上ポイントになることも多い
- 美術史研究向け**ツール開発・データ蓄積**
 - 蓄積結果はAIの精度向上にも寄与
 - AIの精度向上が美術史研究の高度化に寄与

付記：利用したIIF画像

- 日本古典籍データセット（国文研所蔵） CODH
配信より
- 宇津保物語（メインで見たもの）：
<http://codh.rois.ac.jp/pmjt/book/200015505/>
- 宇津保物語（比較に使ったもの）：
<http://codh.rois.ac.jp/pmjt/book/200017526/>
- 咸陽宮：
<http://codh.rois.ac.jp/pmjt/book/200016472/>